

主催：研究・イノベーション学会関西支部持続可能エネルギー環境支部分科会、  
共催：有機太陽電池研究コンソーシアム、NPO EE ネット

## 第3回分科会のご案内（追加）

今回は、研究・イノベーション学会関西支部持続可能エネルギー環境支部分科会の第3回分科会「持続可能エネルギーイノベーションとエネルギーシフト」を企画しました。

### 趣旨：

21世紀はエネルギーシステムにおけるパラダイムシフトの時代といわれる中、これまでのわが国エネルギーシナリオは大きな転換期を迎え、エネルギーシステムのイノベーションが進行しつつある。とりわけ、2016年11月のCOP21のパリ協定の発効により、地球環境に負荷をかけない安価で持続可能な新エネルギー開発が喫緊の課題となっている。しかるに、近年、我が国におけるイノベーションはその劣化が指摘されるようになって久しく、エネルギーイノベーションにおいてもその遅れが指摘される場所である。このような状況を踏まえ、どのような戦略が可能か、持続可能エネルギーをターゲットに、議論を深化させたい。

日時：4月20日（金）13：30-18：00

場所：（研究会）京大吉田キャンパス国際科学イノベーション棟4F ミーティングルーム 4c,4d  
（交流会）居酒屋 百万遍しゃらく (<https://r.gnavi.co.jp/k614100/>)

### 研究会プログラム：

13：30-14：30 講演1

【これからのエネルギーシステムを支える革新的な技術について】

京都大学エネルギー科学研究科科長、教授 石原慶一 氏

【概要】21世紀のエネルギーシステムとして、分散型電源、EV、再エネ、スマートグリッド、水素社会など取り上げられている。これらを俯瞰して、今必要な技術開発はどこにあるのかについて、材料開発という観点から考える

14：30-15：30 講演2

【我が国のイノベーションはなぜ劣化したのか。--これからのイノベーションに向けどう立て直すべきか】 京都大学思修館 教授 山口栄一 氏

【概要】かつて「科学立国」として世界を牽引した日本の科学とハイテク産業の凋落が著しい。その原因は企業の基礎研究軽視のみならず、政策的失敗にもあったことを、ベンチャー支援策に成功した米国との比較から解明する。さらに科学の発見からイノベーションが生まれるイノベーションモデルを明らかにし、日本の科学とイノベーション復興に向けた具体的な処方箋を示す

15：40-17：00 総合討論

【持続可能エネルギー環境イノベーションのための提言と討論】

安田昌司氏、松本毅氏、吉川暉氏によるショートプレゼンと、総合討論を予定

17：00-17：30

17：30～ 交流会

参加費：講演会 1000円、交流会 2500円 当日会場で頂きます。

参加申込：「第3回分科会申込」と明記の上、お名前、所属及び交流会参加の有無を

下記E-mailまたは当学会webサイトからお申込みください。4月17日（火）必着

申込先：研究・イノベーション学会関西支部

副支部長兼支部事務局の長 西原 一嘉 E-mail:nisihara@osakac.ac.jp

# 京都大学キャンパスマップ

